

長屋 尚典

東京外国語大学

nagaya@tufs.ac.jp

1 はじめに

タガログ語にはリンカー (linker; LK) と呼ばれる語 *na* がある。先行する語が母音終わりである場合などには *=ng* として実現する。この言語の文法要素のなかで最も多義的で、かつ頻度の高いものであり、その前後の要素に何らかの文法的関係があることを明示する。たとえば、形容詞による名詞修飾 (1) や動詞による名詞修飾 (2)、動詞補文 (3)、動詞修飾/様態副詞 (4) など表現する。¹

- | | |
|---|--|
| (1) masarap na pansit
delicious LK noodles
「おいしい麺料理」 | (2) pansit na ni-luto ni John
noodles LK PV:PFV:cook P.GEN John
「ジョンが料理した麺料理」 |
| (3) Mahirap na mag-aral ng Inggles.
difficult LK AV:study GEN English
「英語を学ぶことは難しい。」 | (4) T(um)akbo na mabilis si John.
AV:run LK fast P.NOM John
「ジョンは速く走った。」 |

本発表では、このリンカーのさまざまな用法のうち、(5) (6) のような並行事態構文に注目する。

- | | |
|---|---|
| (5) <u>Nag-la~lakad</u> na p(um)asok si John.
AV:IPFV:walk LK AV:enter P.NOM John
「ジョンは <u>歩きながら</u> (部屋に) 入った。」 | (6) (Um)alis na (um)i~iyak si John.
AV:leave LK AV:IPFV:cry P.NOM John
「ジョンは <u>泣きながら</u> (部屋から) 去った。」 |
|---|---|

このリンカー並行事態構文は、口語ではあまり用いられないものの、小説などでは頻繁に観察することができる。その存在自体はタガログ語の研究において知られており、たとえば、Schachter and Otnes (1972:453) は様態副詞 (たとえば (4)) の一種であるとの分析を提示している。しかしながら、詳しい用例の収集もその構文的特徴の分析もなされておらず、タガログ語の節連結の類型の中でどのような位置を占めるかという重要な問題にいたっては手つかずである。

そこで本稿では、この構文について、聞き取り調査・小説用例調査に基づき、その文法的・意味的特徴について分析を行い、以下の主張をする。第一に、リンカー並行事態構文は同一行為主体による同時並行的事態を表現する。第二に、この構文の従属動詞は、主動詞の項についての二次述語になっている。第三に、従属動詞は未完了形の活動動詞でなくてはならない。第四に、この構文は対格アラインメント制約を持つ。最後に、この構文の節連結のタイプは Role and Reference Grammar (Van Valin 2005; 以下、RRG) の類型にしたがえば、連位接続である。

* 本稿に関する内容については以下の方から貴重な意見および情報をいただいた: 倉部慶太、黒島規史、山本恭裕 (敬称略)。また、本稿の内容は 2016 年 10 月 7 日に東京外国語大学における非公開研究会でも発表し、有益な質問とコメントをいただいた。その参加者にもお礼を述べたい。言うまでもなく本稿に残るいかなる誤りも著者の責任である。なお、本発表は科学研究費補助金 #15K16734 (代表: 長屋尚典)、#25244017 (代表: 峰岸真琴)、#15H03206 (代表: 松本曜) からの支援を受けている。

¹ 本稿で用いる略号は以下の通り: AV-actor voice, EXC-exclusive, EXS-existential, GEN-genitive, IMP-imperative, INC-inclusive, IPFV-imperfective, LK-linker, LOC-locative, LV-locative voice, NEG-negation, NOM-nominative, P-personal name, PFV-perfective, PV-patient voice, PL-plural, SG-singular, 1-first person, 2-second person, 3-third person, <-infix, "-cliticized, "~"-reduplicated.

本稿の構成は以下の通りである。まず、第2節で、本稿に関係する範囲でのタガログ語の基礎についてまとめる。次に、第3節で、リンカー並行事態構文の形式的特徴と意味的特徴を分析する。それをうけて、第4節では、この構文を RRG の接続構造のタイポロジーの中に位置づける。最後に、第5節で本稿をまとめる。

2 タガログ語の基礎知識

タガログ語はフィリピン共和国ルソン島中部マニラ首都圏およびその近郊地域で話され、オーストロネシア語族西マラヨ・ポリネシア語派に属する。主要部先行型言語であり、典型的他動詞文においては VSO の語順をとる。動詞はアスペクト、ムード、および焦点について活用し、名詞句は格関係 (NOM, GEN, LOC) と名詞クラス (普通名詞 vs. 個人名)、数について名詞マーカーで標示される。

タガログ語の動詞は焦点体系と呼ばれるヴォイス体系をもつ。形態的に、*-um/-mag-* (行為者ヴォイス (AV))、*-in* (被動者ヴォイス (PV))、*-an* (場所ヴォイス (LV))、*i-* (その他ヴォイス (CV)) の4つの範疇が区別される。本稿では、タガログ語が能格型の格標示を持つという仮説を採用する。すなわち、自動詞構文となる行為者ヴォイスにおいては NOM (S) あるいは NOM (S)-GEN(OBL) という格標示を持ち、一方で、他動詞構文となる被動者ヴォイス、場所ヴォイス、その他ヴォイスにおいては GEN (A)-NOM(O) という格標示を持つと分析する。

最後に、この言語の人称代名詞が必ず節の2番目の位置を占める後接語であることに注意してほしい。いくつかの例で人称代名詞が予想される位置とは異なる位置に出ているのはそのためである。

3 リンカー並行事態構文の形式的・意味的特徴

本節ではリンカー並行事態構文の形式的・意味的特徴を分析する。これまでに、Schachter and Otnes (1972:453) は様態副詞の一種であるとの分析を提示しているが、これでは不十分である。

■**リンカー並行事態構文の主要部** 本論に入る前に、リンカーで結ばれた動詞を二つ含むリンカー並行事態構文における主要部について論じたい。本稿では、文全体のアスペクト的性質を決定している方の動詞を主要部と判定する。たとえば、(5) においては、文全体が既に終結した事態を表現しているので、そういうアスペクト的意味を表現している完了相の動詞、すなわち、*pumasok* 「入った」が主要部であると判定する。そうでない方の動詞 *naglalakad* 「歩いている」はそのアスペクト的意味が主要部の動詞に依存していると考えられる。(6) でも同様に、*umalis* 「去った」が主要部である。この基準に従って、以下では、文全体のアスペクト的性質を決定している方の動詞を主動詞と呼び、そうでない方の動詞を従属動詞と呼ぶことにする。

このように、この構文においては動詞の活用形に注目することによって主要部が判定できる。しかしながら、この判定方法は万能ではない。(7) のように動詞が両方とも未完了相である場合はこの基準が適用できない。意味的基準²に頼るしかないが、その基準は話者によって揺れがみられる。

(7) K(um)a~kanta siya=ng l(um)u~luha.

AV:IPFV:sing 3SG.NOM=LK AV:IPFV:weep

「彼(女)は涙を流しながら歌っている。」「歌いながら涙を流している。」

なお、この構文においては語順を主要部判定の基準として用いることはできない。主動詞と従属動詞の語順は比較的自由に交替が可能であるが、これはリンカーを用いた修飾構文全般の特徴である。たとえば、形

² たとえば、*Anong ginagawa mo?* 「何をしていますか?」の答えとしてどちらの動詞を使うかというテストがある。

容詞による名詞修飾 (1) や動詞による名詞修飾 (2)、動詞修飾 (4) において前部要素と後部要素を入れ替えても文法性については違いがない。

■(i) **同一主体による同時並行的事態** リンカー並行事態構文は主動詞で表現された事態に並行的かつ従属的に生じている事態を表現する。言い方を変えれば、**同一主体による同時並行的事態**を表現する。たとえば、(5)(6) においては下線部の従属動詞の表す事態が太字の主動詞の表す事態と同時並行的に、かつ同一主体によって引き起こされたことが表現されている。

同時並行的に生じている事態を表現する構文という、この言語には他にも *habang* 「～のあいだに」という接続詞を用いた表現がある。たとえば、(8) や (9) のようにである。(10) のようにリンカー並行事態構文とともに使われることもある。

(8) Na-tu~tulog si John, habang nag-lu~luto ako.
AV:IPFV:sleep P.NOM John while AV:IPFV:cook 1SG.NOM
「私が料理しているあいだ、ジョンは寝ていた。」

(9) Huwag mag-lakad, habang nag-la~laro ng PokemonGO.
NEG.IMP AV:walk while AV:IPFV:play GEN PokemonGO
「ポケモン GO をしながら歩いてはいけない。」

(10) <Um>i~iyak siya=**ng** nag-ba~basa, habang k<um>a~kain ako.
AV:IPFV:cry 3SG.NOM=**LK** AV:IPFV:read while AV:IPFV:read 1SG.NOM
「私がご飯を食べている間、彼(女)は泣きながら本を読んでいた。」

このように *habang* を用いた複文もリンカー並行事態構文も同時進行する二つの事態を表現できる。しかし、*habang* を用いた複文に比して、以下に述べるように、リンカー並行事態構文に対する制限は強く、非常に限られた種類の並行事態しか表現できない。リンカー並行事態構文で表される事象は、*habang* を用いた複文で表される事象のうちの、ほんの一部である。

■(ii) **二次述語** この構文の従属動詞は、単なる同一主体による同時並行的事態ではなく、**主動詞の項についての二次述語 (secondary predicates)** になっている。たとえば、(5)(6) で John は主動詞 (太字部) についてだけでなく、従属動詞 (下線部) についても主述関係にある。(5) において、John は「入った」のみならず「歩いてい」たのであり、(6) においては「去った」だけでなく「泣いてい」たのである。従属動詞が主動詞で表現された事態の別側面を描写しているのである。

Schachter and Otnes (1972:453) のように、この構文を様態副詞の一種とみなしている研究もあるが、二次述語を構成するかしないかという点において両者は区別されるべきである。実際、様態副詞構文である (4) において John と *mabilis* 「速い」の間に主述関係はない。

■(iii) **従属動詞に対する制限** この構文で同時並行的事態を表現する従属動詞は**未完了形の活動動詞**でなくてはならない。たとえば、(5)(6) で下線部の動詞を完了形にすると非文になってしまう。このことはここでもいう従属動詞が意味的にも形式的にも主動詞に従属していることの証左と言える。独自に活用したり、アスペクト的意味を持つことが出来ないからである。

■(iv) **対格アラインメント (S/A) 制約** この構文は、対格アラインメント制約を持つ。すなわち、従属動詞の項のうち二次述語形成のために**空所 (pivot)** となることができるのは自動詞文主語 (S) あるいは他動詞文主語

(A)のみであり、主動詞の項のうち空所の解釈を決定できる**コントローラー (controller)**もSあるいはAのみである。

まず、文法的なパターンを確認しておこう。(11)はコントローラーがSで空所もSの例、(12)はコントローラーがAで空所がSの例、(13)はコントローラーがSで空所がAの例、(14)はコントローラーがAで空所もAの例である。³

(11) Nag-lakad kami(S)=ng nag-u~usap [S] kahapon.
AV:PFV:walk 1PL.EXC.NOM=LK AV:IPFV:talk yesterday
「昨日、我々は話しながら歩いた。」

(12) K<um>a~kanta [S] =ng t(in)apos ni Joshua(A) ang assingment.
AV:IPFV:sing =LK PV:PFV:finish P.GEN Joshua NOM assignmnet
「ジョシュアは歌いながら宿題を終わらせた。」

(13) <Um>uwi ako(S) na <in>i~isip [A] ka.
AV:go.home 1SG.NOM LK PV:IPFV:think 2SG.NOM
「あなたのことを考えながら私は家に帰りました。」

(14) B<in>alik-an ko(A) ang office natin na <in>i~isip [A] ka.
LV:PFV:return 1SG.GEN NOM office 1PL.INC.GEN LK PV:IPFV:think 2SG.NOM
「あなたのことを考えながら私は私たちのオフィスに戻りました。」

一方で、これ以外のパターン、つまり、コントローラーか空所にOが含まれるパターンは許容されない。たとえば、(15)は、コントローラーがSで空所がOのパターンであるが、このような場合、リンカー並行事態構文は用いることができない。

(15) *Nag-la~lakad ako(S)=ng t(in)awag [O] ni Joshua.
AV:PFV:walk 1SG.NOM=LK PV:PFV:call P.GEN Joshua
「ジョシュアが(私を)呼んだとき、私は歩いていた」を意図

最後に、ここでいう対格アラインメント制約が単なる有生動作主制約ではないことを確認しておこう。(16)のように、無生物のSが無生物のSに相当する空所をコントロールすることは、(稀ではあるが)可能である。

(16) T<um>a~takbo iyon(S)=ng nag-wa~wangwang [S].
AV:IPFV:run that.NOM=LK AV:IPFV:siren
「それ(車)はサイレンを鳴らしながら走っていた。」

■まとめ このようにリンカー並行事態構文は、同一主体による同時並行的事態を表現する構文である。従属動詞は二次述語であり、未完了形の活動動詞という厳しい制限を持っている。さらに、空所・コントローラーともどもS/Aでなくてはならないという対格アラインメント制約も持っている。これまで記述されなかったことが不思議なくらいにまとまった特徴を持っている構文であると言える。

特に、この構文が対格アラインメント制約を持っていることは重要である。第一に、タガログ語の節連結あるいは主語的性質に関わる現象のなかでも、この構文ほど、対格的な主語的性質を示す構文も珍しい。Schachter (1976) や Kroeger (1993) でも見過ごされているが、その事実を本稿では指摘した。

³ 以下の例文においては、“()”でそれに先行するコントローラーの文法関係を、“[]”で空所の位置と文法関係を表現している。

第二に、対格アライメント制約は、リンカー並行事態構文を、様態副詞構文やその他の二次述語構文から区別する基準となる。(4)のような様態副詞構文では制約の対象となるような空所などないし、(17)のような描写的 (depictive) 二次述語 (Nagaya 2004) では、O に対応する項が S に対応する空所をコントロールすることも可能である。

- (17) Hilaw [S] ko=**ng** k(in)ain ang isda(O).
 raw 1SG.GEN=LK PV:PFV:eat NOM fish
 「私は魚を生で食べた。」

4 中核・連位接続としてのリンカー並行事態構文

本節では、Role and Reference Grammar⁴ における節連結のタイポロジーによりながら、リンカー並行事態構文の節連結上の特徴を考察する。

■RRG における節連結のタイポロジー RRG においては、節連結を**接続 (juncture)** および**接合 (nexus)** という二つの異なるレベルから類型化する。まず、接続は文の階層構造についての分類である。RRG においては文の句構造を**内核 (nucleus)**、**中核 (core)**、**節 (clause)** という3つの層からなるものと考え、これらの層のうち、どのレベルで連結されているかを考えるのが接続である。内核、中核の接続では項の共有が見られるという特徴がある。

一方で、接合は二つの要素がどのような依存関係において結びついているかについての分類である。RRG では、お互いが独立な関係で結びつく**等位接続 (coordination)**、構造的な依存関係がある**従位接続 (subordination)** だけでなく、否定、モダリティ、発話内力などの操作子 (operator) における依存関係がある**連位接続 (cosubordination)** に分類する。

したがって、このタイポロジーにおいては3つの接続と3つの接合、合計9通りの接続構造のタイプがあることになる。たとえば、英語の *Kim sat reading a book* は中核・連位接続であり、日本語の「明日で試験が終われば、キャンパスから学生が減るだろう」は節・連位接続である (大堀 2014:658)。

■リンカー並行事態構文は中核・連位接続 RRG の接続構造のタイポロジーに従うならば、リンカー並行事態構文は中核・連位接続であると分析できる。まず、接続のレベルにおいては中核である。(13)(14) そして (18) のように述語と項という単位同士で結びついているからである。項の共有は必須であり、(19) のように項が共有されていない場合は意味的には大丈夫そうでも非文である。

- (18) [CORE H(um)i~hingal siya]=**ng** [CORE s(in)abi ito]: Sandali lang.
 AV:IPFV:out.of.breath 3SG.NOM=LK PV:PFV:say this.NOM moment only
 「彼 (女) は息を切らしながらこう言った: 『ちょっと待って』。」
- (19) * Nag-la~lakad ako(S)=**ng** (um)u~ulan.
 AV:IPFV:walk 1SG.NOM=LK AV:IPFV:rain
 「雨が降るなか、私は歩いていた」を意図

さらに、主動詞の主語と同一指示のものであってもそうでなくても、従属動詞が独立に主語をもつことはできない。これは中核のレベルで接続されていることの証拠である。それぞれ (20) と (21) を参照してほしい。

⁴ RRG の用語の日本語訳は大堀 (2014) による。

- (20) ?? Nag-la~lakad siya=**ng** p(um)asok siya.
 AV:IPFV:walk 3SG.NOM=**LK** AV:enter 3SG.NOM
 「彼(女)が歩きながら入った。」を意図
- (21) * Nag-la~lakad siya=**ng** p(um)asok ako.
 AV:IPFV:walk 3SG.NOM=**LK** AV:enter 3SG.NOM
 「彼(女)が歩いている間に、私は入った。」を意図

一方で、接合のタイプとしては連位接続である。主動詞と従属動詞において、否定やモダリティ、発話内力のような操作子の依存関係が観察されるからである。

- (22) Hindi siya nag-la~lakad **na** p(um)asok.
 NEG 3SG.NOM AV:IPFV:walk **LK** AV:enter
 「彼(女)は歩きながら入らなかった。」
- (23) Dapat ka=**ng** mag-isip **na** mag-isa.
 must 2SG.NOM=**LK** AV:think **LK** AV:be.alone
 「一人で考えなくてははいけない。」
- (24) Mag-lakad ka=**ng** p(um)asok.
 AV:walk 2SG.NOM=**LK** AV:enter
 「歩きながら入れ!」

このように、リンカーによる並行事態構文は中核・連位接続である。この点、意味的には同じく同時並行的事態を表現する *habang* 「～している間に」を用いた節レベルの従位接続構文とは区別される。この *habang* 構文は、(8) のように別の主語を持つことができたり、(9) のように主節と従属節とで独立に否定やモダリティ、発話内力を表す要素を取ってもよい。

5 おわりに

このように、本研究はリンカー並行事態構文について新しい発見と分析を提示する。この結論は、タガログ語の節連結の類型論において大きな意義を持ち、全く新しい視点でこの言語の節連結を見直すことを要求するのである。

参考文献

- Kroeger, P. 1993. *Phrase Structure and Grammatical Relations in Tagalog*. Stanford, CA: CSLI Publications.
- Nagaya, N. 2004. Depictive construction and grammatical relations in Tagalog. *Tokyo University Linguistic Papers* 23:119-150.
- 大堀壽夫. 2014. 「従属句の階層を再考する —南モデルの概念的基盤—」 益岡隆志他 (編)『日本語複文構文の研究』, 645-672. ひつじ書房.
- Schachter, P. 1976. The Subject in Philippine Languages: Topic, Actor, Actor-topic, or None of the Above. In Li, Charles (ed.), *Subject and Topic*, 491-518. New York: Academic Press.
- Schachter, P. & F. T. Otones. 1972. *Tagalog Reference Grammar*. Berkley: University of California Press.
- Van Valin, R.D., Jr. 2005. *Exploring the Syntax-Semantics Interface*. Cambridge: CUP.